

平成 29 年度

第 3 回上田市総合教育会議(平成 30 年 3 月 8 日) 議事録

1 開会

2 母袋市長あいさつ

皆様お疲れ様でございます。厳しく長かった冬、私の人生経験の中でも初めてくらいの、寒さ一本調子というような状況でございました。我が上田市(菅平高原)が、全国で一番寒い日というのが何と4日間もあったことはご承知でしょうか。マイナス24度前後でした。とっていたら、4,5日前、県内で一番暖かい日というのがあり、22度と、上下の差が40度以上の開きでした。市町村合併の効果なのかどうなのか分かりませんが、そういうところにも現れているということが申し上げたかったのですが、何でも上田市は売り込んでいるところがございますので、一番が良いということです。

今年度第3回目の総合教育会議に御出席いただき、ありがとうございます。

前は昨年末の会議でございまして、年始以降、上田市においてはスポーツのうれしいニュースがいくつかあり、これは皆さんもうお聴きになっていると思いますが、しつこくもう1回言います。

一つは、上田西高等学校サッカー部が全国高校サッカー選手権大会で県勢初の4強入りを果たし、堂々の3位となったこと。

二つ目には、韓国ピョンチャンで行われた冬季オリンピックに今井胡桃(いまいくるみ)さん、岩淵香里(いわぶちかおり)さんの2名が上田市出身の選手として初めて出場され、活躍されたということがございました。

加えて、スピードスケートナショナルチームが去年から菅平高原で合宿した成果が、高木姉妹や菊池選手など諸々の選手たちの成績に表れまして、日本選手団が過去最高のメダル獲得となったことはご存知のとおりだと思います。1月末に菅平高原に合宿に来ていたスピードスケートナショナルチームにオランダ人のヨハン・デビットコーチがいらっしゃいましたが、りんごを持って表敬訪問をしましたが喜んでもらいました。菅平高原については、夏場やピョンチャンに向かう前の20日間ほど、長野市のエムウェーブに行く拠点としても使っていたのですが、非常に気に入っておられる感じでありまして、今後も是非来たいとのことでした。コーチに振興施設(上田市菅平高原アリーナ)を造っていますと話したら、そこにスケートリンクも加えてくれと無茶振りをされてしまいました。

今後も、世界の菅平高原ということで、2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、これに向けて上田市ではどう関与していくのか。単なるキャンプ地・トレーニング地の誘致だけではなく、地元の子どもたち、あるいは文化・スポーツの交流・融合というものがオリンピック憲章にも謳われておりますので、子どもたちが今回ピョンチャンオリンピックを観て、かなりいろいろ感じた方も多いと思います。

私が一番グッときたのは、カーリング女子が銅メダルを取りましたが、北見市常呂町出身の吉田選手が凱旋報告会で「常呂町は何もない町で、小さい頃はここにいたら夢は叶わな

いと思っていた。でも今は、この町でなければ夢は叶わなかった。」とお話していました。夢を持って努力したということですね。私は素晴らしいことを言ってくれたと思いました。やはり子どもたちに色々な経験をさせてあげて、選択をきちんとしていけるような状況を親も社会も学校も作っていかなくてはいけないと、そのようなことを持論として申し上げたいと思っています。

4年後は北京ということでまた同じアジアで冬季オリンピックが開催されますので、また多くの選手やチームが菅平高原・上田に来てくれたうえで大活躍されることを心から願っております。そういう意味からしても今後もスポーツの力と文化芸術の力の両輪で人づくりに邁進していくべきであるし、その素材・要素が上田にはたくさんある。このことは誇りでありますし、何よりのものであると思っております。

さて、今日は年度末に差し掛かっておりますが、次第の3点に沿って取り組みの状況を事務局から報告させます。皆様には御確認と御協議をお願いしたいと思っております。

以上、私からのあいさつといたします。

3 小林教育長あいさつ

本年度最後の総合教育会議でございます。教育委員会として一言あいさつ申し上げます。この場でしばしば御議論いただいた様々な課題について、2点申し上げます。

1点は、英語に関することでございます。小学校の英語教育であります。来年度からの先行実施に向けては文部科学省が示している方向性にしっかり沿う形で、学級担任が力量を高めること、また、学級担任を中心に指導していくことを本筋といたしましてALTや専科教員を随時活用していく体制で臨んでまいりたいと考えております。併せて、この場でも議論されました、地域の人材をどのように活用していくかという観点も第三の柱として、今年度の大きな課題としていかなければならないと考えているところでございます。

2点目は、現在から将来にわたる少子化、児童・生徒数の減少に向けて学校や教育のあり方について考える懇話会を1年間掛けて実施いたしまして、大きな方向としての提言を明日(3月9日)いただくという形にはなっておりますが、来年度からは、2年間を掛けて(仮称)上田市小中学校のあり方検討委員会を設置して具体的な議論を進めていくという方向になっております。この点、市長部局との連携を一層強めていかなければいけない非常に重要な課題であると認識をしているところでございます。総合教育会議の場でも非常に重要な問題になってくるのではないかと考えております。

他にも課題はありますが、本日は市長の意見をいただける貴重な場でございますので、将来にわたって教育としてどのようなことを基本として考えていかなければいけないかといった点についても意見を伺い、実り多い御協議の場となることを祈念したいと思います。

よろしくお願いたします。

4 会議事項

(1) 教育大綱の分野別施策の進捗状況について

中村教育次長

資料1により説明(分野1から8まで)

小野塚政策企画部長
資料1により説明(分野9)

小野塚政策企画部長
ただいまの説明に対して、質問や意見がありましたらお願いします。

城下教育委員
8ページ(分野9)の「マチ×マチフェスティバル」について、説明をお願いします。

腰原交流文化芸術センター副館長
交流文化芸術センターで、ホールや美術館にお越しいただいて、鑑賞事業に参加いただくということがありますが、私どもの方から芸術事業をやるために街なかへ出て行く施策の一つで、一昨年から取り組み始めたところでございます。海野町商店街を中心に、民間の劇場「犀の角(さいのつ)」や、市の「まちなかキャンパスうえだ」で会場が用意できましたので、クラシック音楽やコンテンポラリーダンスなどのアーティストさんと一緒に事業を組ませていただいて、市民の皆様に参加いただいたり、鑑賞いただいたりする機会にしています。
私どものホール系の事業だけでなく、今年度は美術館において、街なかの和菓子店とコラボレーションし、和菓子の木型をお借りして展示し、鑑賞いただいたり実際に製作体験もしていただきました。街なかの賑わいづくりの一端を担えればということで取り組みをいたしておりまして、今年度は11月の紅葉まつりの時期に実施をいたしました。

北沢教育委員
8ページ(分野8)の【取組状況】に、「古民家、仏像の悉皆調査」とありますが、文化財は他にもたくさんあるのに、この2つに絞った理由は、日本遺産の認定申請と関係があるのでしょうか。それとも、歴史文化基本構想の策定と関わっているのか、教えてください。

小林生涯学習・文化財課長
たとえば城郭に関しては以前から調査を進めているという状況にありまして、古民家と仏像の調査は進んでいない段階ですので、それらに焦点を当てて調査をしております。

母袋市長
関連して私からもよろしいですか。
日本遺産へ認定申請する内容については、絞っていくのですよね？当初3つくらいありましたよね。タイムスケジュールとしては、いつ頃から絞っていき、いつ申請するのでしょうか。

小林生涯学習・文化財課長
昨日(3月7日)、上田市歴史文化基本構想策定委員会の第2回を開催したのですが、基本構想の中である程度テーマを絞って、たとえば信濃国分寺を中心にした仏教文化ですとか、中世だと戦国時代を中心にした城郭文化ですとか、近世の蚕都(さんと)の関連ですとか、いくつか絞ってあるのですが、そういう素材をまず絞り出した中で、歴史文化基本構想の委員にも参加いただきながら、日本遺産に絞り込んでいきます。
日本遺産に関しては外国人の誘客や観光にかなり繋がってきますので、外国人がどのよ

うなことに興味を持っていただけるか、ある程度、歴史文化基本構想で絞り切れたテーマの中から、今度は若い人や留学生などの外国人から意見を聴きながら、どんなテーマが外に向けてアピール力があるか、他の都市との違いや上田市の強みを出すためにどうするかを御協議いただき、12月までに基本構想を策定します。

基本構想を策定しているということが日本遺産の申請の前提になりますから、来年1月の申請に間に合わせたいという考えで、それまでには文化庁への相談も何回か伺いつつ準備を進めたいと思っております。

母袋市長

確か、申請に必要なのは、5年間で何件と言われていましたよね。

小林生涯学習・文化財課長

100件です。今、54件です。あと2年あります。

寺島教育委員

3ページ(分野3)で、幼保小中連携の実施とありますが、効果は検証してみてどうなのか。効果があるとするなら、4校・4園と言わずにどんどん拡大していかなくてはいけないと思いますし、物理的な要因で拡大が難しいとすれば、良かった点を波及させていかないと、ここだけで終わってしまうという感じがします。効果があるのか検証し、あるならば拡大させることを要望としてお伝えします。

高木学校教育課長

効果といたしまして、毎年学校と保育園を替えて4校ずつ連携をしているわけですが、幼児の成長・学びと、幼保小の接続が滑らかに進むためにやっております、アプローチカリキュラムの作成等、きめ細やかな対応ができ、それなりの効果が出ております。また効果につきましては、全ての中学校区に分けて幼保から小中までの代表者が集まりまして効果を検証しながら自分たちの地区でどう生かしていくかを検討しておりますので、より効果が上がるような方法を考えながら進めていきたいと考えております

寺島教育委員

4ページ(分野4)で、コミュニティスクールにコーディネーターを配置していただき、ありがとうございました。実態は地域や学校によって特徴があるので、同じ形のコミュニティスクールでなくて良いと思いますが、活発度は学校によって格差があるので内容は同一化することはないと思います。せっかく始めて、統括コーディネーターも配属したので、それぞれの学校の特徴を生かした形でもう少し積極的に地域とコミュニケーションをできるよう推進していただければ、より良い地域づくりに繋がるのではないかと思います。

小野塚政策企画部長

要望ということでお伺いしておきます。

平田教育委員

1点質問をお願いします。

1ページ(分野1)で、生活・学習ノートの「紡ぐ」に関しては製本及び学校配布ということで、各学校が4月から足並みを揃えて全校で活用するのでしょうか。それとも任意の取り組みなのでしょうか。

高木学校教育課長

全校に全員配布いたしますので、基本的には全教室で活用いただきたいと考えております。強制ではなく試行の段階ですが、試行の結果を踏まえてその先は判断したいと思います。

平田教育委員

前回の定例会でお伺いしたとおり、生活ノートとは違った形で、学力向上に向けて自宅学習や1日のスケジュール確認のために活用する方向で進めていくという認識でよろしいですか。

高木学校教育課長

そのとおりです。

北沢教育委員

意見です。

2ページ(分野2)の小学校の外国語の教科化に関してですが、上田市は先行実施に関して良い取り組みをしていると感じています。一番は、指導主事をきちんと配置していただいたこと、もう一つは、教科化の推進委員会を設置していただいたことが良かったと思います。もっと具体的に言うと、推進委員会から履修の形態を3タイプ示してもらったこと等です。また、公開授業の様子をデータベース化し、閲覧できることも先進的な取り組みだと思います。せっかく、今年度は公開授業を11回やっていただき、録画もしてあると思いますので、気軽にどこからでもアクセスして見られるようにしていただくと有難いし、CD等を用意してもらえればと思います。

もう一つは、中学校配置のALTを小学校で活用ということですが、ALTの活用状況の成果と課題を見極めて次年度以降に繋げていただければと思います。

状況に応じて、推進委員会での更に質の高い活動を期待しています。

高木学校教育課長

データベース化の話ですが、現在、教職員のポータルサイトというのがございまして、こちらで閲覧可能となっているものがあります。授業の風景等、できる限り参考にできるものを公開していきたいと考えております。

ALTの関係でございしますが、新年度は10人のうちの6人を小学校専任として活動していきたいと思います。それと、県費の英語の専科教員が2人配置されますので、それも含めて効果的な取り組みをしていきたいと考えております。

(2) 第2期上田市教育支援プランの進捗状況について

中村教育次長
資料2により説明

小野塚政策企画部長
ただいまの説明に対して、質問や意見がありましたらお願いします。

寺島教育委員

ご苦労して表にさせていただいて、数字だけでなくトレンドも含めて見やすくなっていて、ありがとうございます。教育支援プランにおいて、見える化を図って数値化した目標を入れようということで、私も数値化した目標設定に携わった者の一人なのですが、見てみますと正直言って教育という分野は数値とマッチしない部分もあるのではないかと、その点はこれからの運用も含めて見ていかないと、数値にこだわると有らぬ方向に行ってしまうのではないかと。たとえば、英語のコミュニケーション能力の充実ということがあるのですが、これそのものが悪いわけではないのですが、この数値にこだわってしまうと、英語教育の目標が英語検定をとることそのものになってしまうのですよね。そうではないと思うのですよね。したがって、数値の使い方を間違えると、教育という分野では目指す上田市の教育が有らぬ方向に行ってしまうのではないかと懸念を常に持っています。一つの目安としては良いのですが、数値にこだわらずに教育は進めていただきたいというのが、反省も込めた思いです。

小野塚政策企画部長
ご意見として何うということでしょうか。ありがとうございます。

北沢教育委員

5ページのICTの活用状況の件ですが、で言うと小学校の平成28年度は81.6%、平成29年度は83.8%、は平成28年度60.0%、平成29年度も60.0%、は平成28年度32.0%、平成29年度は44.0%ということで、3つの項目のうち2つは向上して、1つは横ばいという状況ですね。ところが、4ページで、「授業が分かる」と回答する児童・生徒の割合は下がっています。それから、学力の状況に関しても下がっています。この数字からもわかるように、デジタル教科書やタブレット端末等を導入すれば学力が上がるかという、一律には繋がらないと思います。この数字を見て、そうだと言うわけではないのですが、実際にグラフを見ても下がっています。

「ICTの活用」が魔法の言葉みたいにならないようにしていただきたい。機器を導入し、どのように活用するかということが、最も大事なことです。タブレット等の操作は、子どもたちが興味関心を持って取り組みます。そこまでは良いのですが、それだけで本当に学力が付いていくのか、そういうところまで検証して欲しいと思います。「機器を導入して、導入率が上がりました」というような、そこだけの数値で評価してはだめで、学力との関連性を見ていかないといけないと思います。

高木学校教育課長

おっしゃるとおり、目標や数値を挙げるだけ、機器を導入することだけに捉われると本来の

目指すべき姿を見誤ってしまうと思います。

数値だけに捉われることなく、実際にどのように効果のある授業が行われたか、といったことに重きをおいて検証していきたいと思います。

城下教育委員

2人の委員のお話を聴いて、思いが揺れ動きました。私がかつて委員になった頃は、これほど細かく施策を検証してこなかった気がします。ここ数年、数値で成果を表していくようになり、大変ご苦労いただいていると思います。数値化、見える化を図っていただいているわけなのですが、私はこの方法は半分賛成というか、行うべきことだとは思っています。なぜかという、教育というのは聖域化しているというか、主観的というか、たとえば、教員を増やして手厚くすれば学力は上がるはずだ、上がるだろうということで何となく施策が打たれてきたと思うのですが、数値化することでそのことが検証できるようになったと思います。

ただし、北沢委員がおっしゃったように、数値の裏を読んでいく必要があると思います。数値を検証して、果たしてそれは効果があったのかを追うためにも、数値化することは大事だと思います。ただし、数値ばかりを追いかけてしまうと、子どもたちにとってはテストが増えたり、学校ごとに格差が生まれたりといった弊害も起きると思いますので、そのさじ加減はとても難しいと思います。なおかつ、どの数値に光を当てるかということが大事だと思います。

浪方教育参事

上田市では、情報を担当する指導主事がありまして、私もこの5年間を見ている中で非常に充実した機器の配置になっております。委員の皆さんにも見ていただいたとおり、情報教育の担当の教員に各校から集まってもらって、活用の仕方についてお互いに研鑽しあっております。したがって、先ほどの英語の教科化についても推進委員会でも研鑽しあいながら、学んでいただいています。やはり、これもデジタル教科書を使ってやっていただき、リンクしている部分がございます。

委員の皆さんからいただいたとおり、指導する教員が一番有効な使い方をして、それを子どもたちが「今日は楽しかった、今日は内容が分かった」という授業が、先ほど言った研究体制の中で進んでいるのが実際であります。したがって、情報をホームページに載せたり、データベース化してお互いに共有したりして、少しずつでも全学校の先生に理解していただいて、それを広めていくという状況であります。

ですので、数値だけで見ているのではなく、それを使う教員、それを学んだ子ども、それを体験した保護者が、「これは良いものだ」と自覚をしながらどんどん広まっていくという中で、数値の裏を見ていただくものと考えています。小中連携など色々な委員会がありますので、それをこれからも広く続けながら学び合っていく、そのような上田市の学校教育の進め方だと考えておりますのでよろしく申し上げます。

平田教育委員

数値の捉え方には様々な考え方があるかと思いますが、真摯に取り組んだものについてはやはり良い結果が出ているということがわかります。15ページの地域による学校支援の取組で、ボランティアバンクの登録者が1,305人に増えています。今年度作成されたボランティア用のハンドブックもとてもわかり易く作成され、年度ごとに積み上げてきた活動の成果が確実に表れていると思います。目に見える取組、見えない取組がありますが、数値には真摯

に取り組んでいる姿が表れてくると感じます。積み重ねて結果が出てくるものもあると思うので期待しています。

14ページ、特別な支援を要する子どもたちのために全校にタブレットが入ったことはとても有難いと思います。子どもたち一人ひとりに寄り添ってタブレットが活かせるように教員の支援体制を整えていただきたい。また、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の作成は32年度を待たずに、支援の必要な全ての児童生徒に作成していただきたい。特に保護者との連携が必要だと思うのでよろしく願いいたします。

浪方教育参事

今おっしゃった、個別の支援計画ですが、実は昨年初めて体験した先生方の数字であり、自分のクラスで1名は書きましょうという、多くの方が体験して学んだ数字です。今年度は、通常学級においても支援が必要なお子さんについて可能な限り作っていきこう、と呼びかけておまして、数は膨大に増えると思っています。先生たちにとっては「本当はもっと必要だが二人しか書けなかった」とか、そのような意識が働いての数字です。2年目なので多くの先生に理解を得ながら進んでいるところです。

北沢教育委員

13ページの28年度と29年度の不登校児童生徒の在籍率の数字を比べると、小学校は少し減って中学は増えている。不登校や特別な支援を要する子どもたちへの支援については、上田市は以前から手厚いと思っています。感覚的ですが、特に心の教室相談員の配置は他市町村より手厚いです。SC(スクールカウンセラー)、SSW(スクールソーシャルワーカー)の派遣は他市町村もやっていますが、引き続き丁寧な配置をお願いしたい。前年度と数字を比べて、配置しているのに結果が悪くなったから、配置の数を削るという発想にならないようお願いしたい。

高木学校教育課長

委員おっしゃるとおり手厚いと思っており、今後も継続してまいりたい。

(3) 教育委員会の主な政策課題の進捗状況について

中村教育次長

資料3により説明

小野塚政策企画部長

ただいまの説明、資料1、2に重なる部分もあったが、市長部局含めて質問や意見がありましたらお願いします。

寺島教育委員

今後の小中学校のあり方検討において、先日小山市、つくば市に視察に行き大変勉強になりました。直接あるいは間接的に、両市の良いところはもとより、上田市の良いところの再確認もできました。これは要望ですが、4年間教育委員務めるなかで視察は初めてでありまして、年に一回は視察に行けるよう予算をつけていただけると、実際に見て、聞いたことから

言えるようになります。

母袋市長

毎年行っているとばかり思っていました。

城下教育委員

この総合教育会議が始まり、市長部局と教育委員会との見える化、透明度が増したと思います。最初の頃に市長がおっしゃった、教育委員会何やっているか見えないんだ、との発言がとても胸に響いて、なんとかしてこの状況を打破しないと、と思いました。今、このような話ができるのも、委員会制度が変わったことありますが、総合教育会議は大事な場で、回数を多くするのは大変だと思いますが、一堂に顔を合わせる場は大事だと思います。

寺島教育委員

視察に行った小山市の義務教育学校では、子どもたちにふるさとの教育ということで結城紬をとりあげ、小学校から中学まで一貫して取り組んでいました。上田にも紬や蚕など同じ要素がありますが、学校のークラスがやっているだけで徹底していません。小山市では、1年生は皆で蚕を飼い、2年生は繭で真綿を作る。3年は糸を引き4年生は染色を覚え、最終年度は機織り機で紬を織るところまでやっていて一貫しています。上田は、上田紬は三大紬と言いながら、実際には子どもはほとんど知らないままで、成人式で配るけれども愛着がない。小・中の9年間で一貫して取り組んで、最後は桑の葉でお菓子を作る、そのくらいに伝統文化を徹底して教えないと、本当の意味でふるさとへの愛着など湧かないし、名前だけの上田紬になってしまう。是非文化遺産でも、お蚕の伝統にこだわりを持って、子どもたちの中に上田を離れても残る財産を創らないといけないと思います。

小野塚政策企画部長

他市町村の教育行政は参考になりますし、上田市の今後の子どもたちのためになることでありますので、教育委員会事務局で頑張って予算確保するようお願いします。

最後に教育長、続いて市長からひとことお願いします。

小林教育長

教育は、説明するときに非常にわかりづらい。私はそのように思っているが、それが正しいかどうかをなかなか証明できない。だからといって自由でいいということでもなく、しっかりと説明していく、わかるようにしていく。「見える可」もその一つで大事なことであります。それぞれ想いがある世界でありますので、皆が納得する言葉で語る必要があると改めて感じています。特に今後、難しい課題が山積すればするほど、余計にしっかりと思いを留めておかなければなりません。

もうひとつ、国を挙げて問題にしているのが、教員の働き方改革。教員の労働時間をどうやって少なくしていくかとなると、ある意味でスリム化を図っていかねばなりません。また、子どもたちが少なくなる、これに対しても教育全体としてしっかりとスリム化を図っていく必要があります。必要なことはしっかりやっていかねばならず、互いに矛盾することを、あり方をしっかり考えていかないと先生方がパンクしてしまう。先生方は一つ一つのことに非常に真面目なので、どういうものがよいのか、しっかり考えていかないといけない、ということをお話して

いただきました。

また、寺島委員さんおっしゃるように全体の中で、「上田市の何か」を持つことも素晴らしい。素晴らしい世界の話であるけれどもどう折り合いをつけていくのか、今後の課題となるかと思えます。

この会議は3年間やってみて、今までと全然違います。教育委員会も一体となって動いていると、わかっていただけたのではないのでしょうか。是非この会議を今後もいい形にしてほしいと思います。

母袋市長

第1期教育支援プラン、第1期目は教育改革の時に、私が仕掛けたことに対していろいろと議論になったことを思い出します。形として教育支援プランができて、二期目に入り、教育改革や見える可も含め、いろいろな意味で話が前へ前へと進んできました。何より国が法体系を作って総合教育会議を義務付けし、市長部局と教育委員会との話し合いの場を作ったということそのものが大きなエポックメイキング。これまでは長年できなかったのですから。その中ではつまるどころ、組織の横の連携をきちんとやる。問題意識を持つと同時に、何が良くて何が悪くて、問題は何なのかという情報共有をきちんとしないといけない。特に市職員はローテーションで回っていくので、どこへ行ってもこなせるくらい、日頃からの情報共有が必要ですよ。

もう一つは、行政はPRが下手で市民に内容が届かないという課題があります。SNSなどの手段もありますが、一番は広報です。しかし、折に触れて特集組んできたかということ、あまり見た覚えがないんですね。たとえば主な政策課題の進捗状況にある8項目は、今の上田市教育サイドで大きな課題です。その課題に対してご意見を頂戴する必要があるでしょうし、それそのものが市民に理解していただく手段であると思っています。したがって、私の反省も含めて、その辺の情報共有、市民との共有はこれからも折に触れて、忘れてしまうので常に意識してもらいたい。それが10年間の上田市総合計画で言うところの「市民の力」になり、「行政の力」と「地域の力」の3つが一つになって、新たなビッグパワーになると確信しています。

視察の話がありましたが、毎年行っているとばかり思っていました。このあたりの予算は私の管轄外で、現場サイドで決められる話です。うっかりという面があったかもしれないが、議員さんが毎年行くのですから必要だろうと思います。

最後に、教育委員さんの中で4月に任期を迎える方が3名いらっしゃいます。私も含めるとこの場で4名とのこと。教育委員については、次のリーダーがどうするかということが一番かと思いますが、一つの区切りであります。それぞれ年数は異なりますが、区切り区切りを大事にして、次なる展開に繋げていくことを皆で意識して欲しいと思います。

皆さまには心から御礼を申し上げます。

小野塚政策企画部長

ありがとうございました。予定した事項が終わり、次第では次回の予定となっておりますが、選挙や委員さんの任期もあるなかでメンバーも変わりますので、この場では決めずに、新体制となったところで決めるとしてご理解をお願いします。

以上で閉会といたします。ありがとうございました。